

多機能型事業所(児童発達支援・放課後等デイサービス)における自己評価結果

公表： 令和 4年 12月 28日

事業所名：発達サポート being

数字は%を表す

		質問項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースは利用者定員に対して十分に確保されている。	80	20			
	2	職員の配置数は利用者数に対して適切である。	80	20			
	3	事業所の空間は、子どもに分かりやすく構造化された環境になっている。	100				
	4	事業所の設備等は、子どもが使いやすいように設計されている。	80	20			
	5	屋内外の環境は、子ども達の興味や活動をそそるように整備されている。	60	20	20		
	6	事業所の設備等は、バリアフリー化の配慮が必要に応じてなされている。	100				
業務改善	7	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、職員の参画が促されている。	80			20	
	8	アンケート調査等の結果を活用して保護者等の意向等を把握し業務改善につなげようとしている。	80			20	
	9	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページで公表する予定がある。	40			60	
	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	20			80	
	11	職員の資質向上や個人の職業的成長のために、研修参加が推奨されている。	100				
	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別の支援計画が作成されている。	100				
	13	子どもの適応行動の状況を測るために、標準化されたアセスメントツール(評価用)を使用している。	60			40	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている。	100				

適切な支援の方法	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	80			20	
		質問項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見
	16	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を設定して子どもを支援している。	80			20	
	17	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて活動計画を作成している。	100				
	18	支援開始前に職員間で打ち合わせをし、その日の支援の内容や役割分担について確認している。	100				
	19	支援終了後には職員間で打ち合わせをし、その日の支援の振り返りを行い、気づいたことを共有している。	80	20			
	20	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	80	20			
21	定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	80	20				
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	22	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が出席している。	80	20			
	23	学校との情報共有（行事予定等の交換、下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。	100				
	24	放課後等のデーサービス場合、就学前に利用していた保育所や幼稚園、子ども園、支援事業所等との間で、情報共有と相互理解に努めている。	80			20	
	25	他の児童発達支援事業所、センター等の機関と連携し情報・助言・研修を得ている。	80		20		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	60		20	20	
	27	日頃から、事業所は子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を深めている。	80	20			
	28	保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている。	40		20	40	
	29	契約や担当者会議の折に、支援の内容、利用者負担について丁寧に説明している。	100				

保護者等への説明等	30	日頃から、事業所は子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を深めている。	60	40			
		質問項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見
	31	保護者に対して個別相談や面談、育児に関する助言等の支援を行っている。	100				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者同士が同席する機会もあり、保護者同士の連携を支援している。	40	20		40	
保護者等への説明等	33	子どもや保護者からの苦情への対応体制を整備するとともに、子どもや保護者に対応体制を周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	100				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定等の情報を子どもや保護者に発信している。	100				
	35	事業所は、子どもや保護者が気持ちや情報を職員に伝えやすい雰囲気を作っている。	80	20			
	36	個人情報の取り扱いに十分注意している。	100				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている。	60			40	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している。	100				
	39	非常災害を想定して定期的に避難、救助、その他の訓練をしている。	100				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	100				
	41	どのような場合に身体拘束をやむを得ず行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で 放課後等デ	100				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応をしている。	80			20	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有している。	80			20	
